

渚滑川河川整備計画検討会（第5回）議事要旨

- 日 時 : 令和6年2月29日（木）14:00～15:30
- 開催場所 : 紋別市民会館（WEB開催併用）
- 出席者 : （会場参加）渡邊委員長、根本副委員長、久保委員、長坂委員、吉川委員
（WEB参加）塩本委員（以上6名）
（欠席）笹木委員
※委員長、副委員長以降の順は五十音順
- 議題 1. 渚滑川水系河川整備計画〔変更〕（原案）に寄せられたご意見と（案）への見直しについて
2. 渚滑川直轄河川改修事業の事業評価について
- 議事要旨

1. 渚滑川水系河川整備計画〔変更〕（原案）に寄せられたご意見と（案）への見直しについて
 - ・ 河川整備に際し既往災害の経験を活かすという記載があるが、そのためには、経験を伝承していく必要がある。伝承方法はどのように考えているのか。（委員）
→ 災害発生時には、災害やその対応を災害報告書の作成や工事台帳への反映等で記録に残している。（事務局）
 - ・ 報告資料のとりまとめに際し、ポイントを簡潔にまとめた数ページの資料もあるとよいと考える。（委員）
 - ・ 地震・津波対応に前回検討会で胆振東部地震を踏まえて「大規模停電」を追記していただいた。その後、年明けに令和6年能登半島地震が発生し、現地での対応においてインフラや生活に多大な影響を与えたのは液状化であった。液状化についても本文に追加していただけないか検討をお願いしたい。（副委員長）
 - ・ 液状化のみならず、この地域で考えられる被害も含めて整理していただきたい。（委員長）
→ 本文への記載内容を検討する。（事務局）
 - ・ パブリックコメントから、渚滑川が地域住民に愛されている川であることを感じた。そのうえでこういう方々に渚滑川を伝えていただく教育側に立っていただければよいと思っている。地域に貢献いただけるようにお繋ぎいただくことも取組を進めるうえでの一つの手段になりうると考えている。（副委員長）
→ 鳥類やケショウヤナギなどを含めて河川を全体的に見ていただいているので、地域に広めて貰えるように一緒になって取り組んでいきたい。（事務局）

2. 渚滑川直轄河川改修事業の事業評価について

- ・ 河川整備計画変更（案）では、気候変動の想定で2℃上昇と4℃上昇の両方に関わる記載がある。一方で事業評価では2℃上昇の記載はあるが、4℃上昇の記載はなくていいのか確認したい。また、その扱いについて意味があるのか合わせて確認したい。（副委員長）
 - 河川整備は全国的に2℃上昇を対象として計画しているため、事業評価では2℃上昇を対象としたハード対策を中心にまとめている。一方で、河川整備計画変更（案）には、ハード対策のみならず、4℃上昇も踏まえた流域治水等のソフト対策も含めまとめている。（事務局）

- ・ 総費用について、大規模災害が発生した年は維持管理費用が大きくなると思うが、記載のケースは大規模災害が無い想定と考えてよいか。大規模災害が発生した場合は、特別予算が組まれてそれに対応することになるのか。（委員）
 - この資料では、大規模災害の発生時の対応は想定していない。（事務局）

- ・ B/Cが4.2とかなり高い値がでていいる。感度分析を含めB/Cを算出しているが、総費用に占める河道掘削の割合が大きく、土砂運搬が費用全体に与える影響が大きいと考える。残土処理は現状でどのように考えているのか。（委員）
 - 掘削土は農地への流用や堤防腹付け盛土等に活用することを考えている。掘削土は、概ね10km範囲で利用することを想定しており、土砂運搬の距離がある程度変更となっても費用全体に与える影響は少ないと考えている。（事務局）

- ・ 掘削土は現状でどのように活用しているのか。（委員長）
 - 現状は、堤防腹付け盛土や地元からの要望を受けて掘削土を提供している。（事務局）

- ・ 年平均被害軽減期待額の算定における現在価値化前と現在価値化後について、現在価値化後の便益と費用が右下がりになるのはどのような理由か。（委員長）
 - 現在価値化により貨幣価値が現在と将来で異なるためである。（事務局）

- ・ 人的被害想定における孤立者の定義を確認したい。（委員）
 - 浸水深30cm以上となる地域内の人数を算定している。この水深は土木研究所の水路実験で、浸水時における移動困難性から設定した指標である。（事務局）

- ・ 委員からいただいた意見を踏まえて案を修正する。修正箇所は渡邊委員長に確認していただいたうえで、北海道等との協議や変更に向けた手続きに入りたいと考えている。（事務局）
 - 了解した。（各委員）

以 上